



第17回 長崎大学病院 ICLSコース



平成29年12月2日(土)開催

主催:長崎シミュレーション教育研究会
共催:長崎大学病院 外来・救急医療教育室
シミュレーションセンター
救命救急センター
協力:日本光電九州株式会社

コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- BLS(一次救命処置)に習熟する
- AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- 心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- 除細動の適応を判断できる
- 電気ショックを安全かつ確実にこなうことができる
- 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

実施結果

受講生17名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。
また、スタッフ(コースディレクター2名、インストラクター4名、アシスタントインストラクター6名)計12名で指導を行い、3ブースを問題なく運営した。
また、スタッフは医師だけでなく、看護師、救命士、とコメディカルからの参加もあった。

※スタッフ詳細はP.4



<実施内容>

開催日時	平成29年12月2日(土) 9:20~17:00
受講者数	17名
対 象	初期研修医 16名、薬剤師 1名
場 所	長崎大学病院 シミュレーションセンター

<スケジュール>

		グループA	グループ(B)	グループ(C)
09:00~09:20	0:20	受 付		
09:20~09:30	0:10	オリエンテーション		
09:30~10:05	0:35	BLS+AED シミュレーション室1		
10:05~10:15	0:10	休憩・移動		
10:15~11:15	1:00	モニター	気道管理	
11:15~11:25	0:10	休憩・移動		
11:25~12:25	1:00	気道管理	モニター	
12:25~13:15	0:50	昼 食		
13:15~13:20	0:05	BLS・ALSデモンストレーション		
13:20~14:30	1:10	チーム蘇生	チーム蘇生	チーム蘇生
		VF/VT	VF/VT	VF/VT
14:30~14:40	0:10	休憩・移動		
14:40~15:25	0:45	non VF/VT	non VF/VT	non VF/VT
15:25~15:40	0:15	休 憩		
15:40~16:40	1:00	メガコード	メガコード	メガコード
16:40~17:00	0:20	終了式・修了証授与式		

○午前○

BLS

A:①山野、山口	②中岡、湯川
B:①小森、和泉	②立石
C:①百木、中島	②田島

気道管理

1:立石洋平
2:中岡賢治朗
3:田島吾郎、百木真吾

モニター・除細動

1:山野修平、山口愛鈴
2:中島章太、湯川恵美子
3:小森悠二、和泉泰衛

○午後○

シミュレーション室 1

山野修平、和泉泰衛、山口愛鈴

シミュレーション室 2

中岡賢治朗、百木真吾、湯川恵美子、中島章太

シミュレーション室 3

立石洋平、小森悠二、田島吾郎

◆アンケート◆ 受講者の声

- ・二次救急の流れが分かり、少し自信が持てるようになった。
- ・心停止の場面に立ちあつた際に動きを理解し、参加できるようになった
- ・これまであまり想像つかなかつたが、少しは力になれるようになったかと思ひます。薬剤師として出来る事をやつて行きたいと思ひます。
- ・緊急時の対応手順が最初よりは出来るようになったと思ひう。
- ・次に何をしようかと常に意識しながら行動することが、以前よりは出来るようになったと思ひます。
- ・今まで以上にBLS、ACLSへの理解が深まつた。
- ・リーダーを出来るようになったと感じた。
- ・心肺停止状態への対応に少し自信がついた。
- ・プロコールを暗記し実行できるようになった。
- ・何が必要か、何を重要視するのか具体的な動きを学べた。
- ・BLSに自信をもって取り組めるようになりまつた。
- ・BLS単独は練習していたけれども、今日BLSに行く一連の流れも学ぶことができた。自信が全くなかつたけれども、今度からはハリーコールに積極的に参加したくなつた。
- ・先を見据えて、次にすべきことを考えようとするようになった。
- ・役割分担、チーム医療の大切さを改めて感じた。
- ・何かできることがないか探せるようになったと思ひます。
- ・変わったと思ひます。
- ・改善したいと思ひます。
- ・丁寧に指導していただき、実臨床に活かせる講習になりました。
- ・細かく見て下さつてたくさんのアドバイスを頂きありがとうございました。

◆アンケート◆ スタッフの声

1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- ・とてもよかった。
- ・良かった人がほとんどですが、「今日は勤務手当出るの？」という受講生もいて、どうかと思いました。
- ・とても積極的でした。意欲的であったと思いました。
- ・まじめに取り組んでいました。

2) 予備知識（予習含む）はどうだったか？

- ・良く予習していて、知識豊富でした。
- ・良く勉強している人も多く見受けられました。
- ・ほぼ均質だった。
- ・しっかりできていたと思います。
- ・少し個人差があるように感じました。
- ・全体的に予習できていたと思います。
- ・しばらく臨床をしているので、知識OK。
- ・だいたいできていたと思います。

3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- ・とても気を使ってくれて親切にしてくれました。
- ・指導経験豊富な方々でとても勉強になりました。
- ・慣れている人のインストラクションが勉強になりました。
- ・説明の方法やフィードバック等参考になりました。
- ・区別がつかないくらいみんな上手でした。
- ・それぞれ分野のプロがいらっしゃるの、様々な視点から意見を貰うことが出来ました。
- ・細かい勉強が足りなかった。
- ・熱心で協力的だった。
- ・優しく声を掛け合いながらフォローして頂きながら行えました。

4) 今後について、ひとこと

- ・シムパッド、PCの簡単な説明書作りますか？
- ・また参加させて頂き、勉強したいと思います。
- ・教えることで、自分も学ぶ事も出来ました。機会があればまた参加したいです。
- ・今後もよろしくお願いします。2
- ・いつも思いますが、準備・片付けがしどろもどろ。

●改善点●

- ・ベッドが揺れたため、揺れないような物に替えるか、バックボードを用意して欲しい。
- ・救急カートが1台物を乗せているだけなので、「分かりづらい」「実感がない」等コメントがあった。
- ・背板はもう1つ必要（救急カート分）
- ・Sim Padの不具合あり（ALS1）シナリオは、PC（有線）で操作した方がやりやすい。
- ・PCの方が使いやすい（LAN使用）
- ・LANがなくなっている。

準備する資機材(3ブース)

資機材名	必要数	備考
ALSシミュレータ、操作用PC	3	
レサシアン	6	
バックバルブマスク	6	
AEDトレーナー	4	フィリップス
気道管理トレーナー	3	
モニター付き除細動器	3	単相性(予備) 1 二相性 2
気道管理ボックス	3	各ブースに1箱ずつ
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
口腔エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡ブレード(4.0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニュラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	2	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	3	各ブースに1つずつ
ワゴン	3	
聴診器	3	
アルコール綿	多目	
ホワイトボード	4	
ホワイトボードマーカー4色	12	
ストップウォッチ	6	
メトロノーム	2	
延長コード	4	



長崎大学病院 外来・救急医療教育室

地域医療支援センター、シミュレーションセンター

〒852-8501

電話 (095) 819-7346

長崎市坂本1丁目7番1号

FAX (095) 819-7379